

ウエルハーネスだより

202
号



上尾市向山1-14-7
社会福祉法人 竹柿会
TEL：048-782-0575
FAX：048-782-0590
令和5年3月25日発行

理事長からの言葉

3月半ばというのに桜の花が開き、今週末には満開になりそうです。いよいよ春です。新型コロナウイルス感染症も下火になってきており、いつも通りの春が送れそうです。とはいえ、高齢者施設ではまだ警戒をゆるめてはいません。当分の間は今まで通りの対応を続けさせていただきます。とりあえず5月8日の5類への移行の時に、制限をどこまで緩和するかを見直そうと思っています。

先日、町内会の総会で畠山市長に会いました（市長は同じ町内の住民です）。その時知ったのが上尾市のキャッチフレーズは「あなたに げんきを おくるまち」ではないということ。それは先代の市長の時代の話で今は「みんなでつくる みんなが輝くまち あげお」だそうです。CM等もそうですが、一度刷り込まれた情報はずっと残るようです。

さて、今月も認知症を公表している芸能人のお話し。ちょっと古いですけど、2月18日の朝日新聞の夕刊に載っていた芦屋小雁さんの「認知症の『店長』89歳、笑って生きるー喜劇俳優・芦屋小雁『副業』を励みにー」から。

5年前に認知症を公表した喜劇俳優の芦屋小雁さんが今年から、週に1度、京都市の喫茶店で店長を務めている。店長になるのは毎週水曜の午後2時～6時、同志社大学西門前の「文化堂珈琲店」。水曜限定の目玉メニューは「特製小雁ブレンド（700円）」、芦屋雁之助・小雁兄弟が好んだ砂糖とミルクにマッチするコーヒー。「濃くて酸味があり、苦みと絶妙なバランスがある味」が特徴。直筆の「あしやこがん」のサイン入りのカップとソーサーで提供する。調理師免許を持った奥さんが食事を用意し、マスターがコーヒーをいれ、接客は別のスタッフが主に担い、小雁さんも時折手伝うという役割分担。お客さんが来ると小

雁さんの顔がほころび、閑古鳥が鳴くと店を出て、客引きをしようとすることもある。ファンが店を訪れると小雁さんはテーブルに向かい。うれしそうにあいさつをする。注文を取ったり計算したりすることは難しいが、注文の品を運び、知り合いが来れば客席で談笑することもある。

小雁さんは2017年ころ、家の近くの駅やバス停で待ち合わせる時、しばしば場所を間違えた。大阪で舞台を務めた際、土地勘はあるはずなのに、どこかわからなくなった。翌年、京都大学病院で診察を受け、脳血管性の認知症であることがわかった。公表するか奥さんは悩んだが、主治医から「小雁さんが公表することで、世の中の偏見が薄れるかも知れない。つらい目にあっている本人や家族の励みになるのでは」と言われた。今回の副業も主治医が背中を押してくれた。奥さんは「認知症でもできることはたくさんある。たいへんなことももちろんあるが、笑って生きられるということが伝わるとうれしい」と考えている。小雁さんも「たくさんの人に店に来てほしい。待っています。」

桜の京都に行き、小雁さんのコーヒーをいただき、春を愛でたいと思う今日この頃です。



2～3月の行事

特養では、コロナ感染で開催できなかったお誕生日会が、各ユニットごとに関われ、お誕生日の方のお生まれになられた日の出来事をお伝えする職員もいました。皆様興味深そうに聞いていらっしやいました。

各ユニット、ケーキを召し上がりました。

デイでは、お誕生日会やひな祭りゲーム、パターゴルフ、春の制作で和風のまりを作りました。

3～4月の予定

4月1日（土） 社会福祉法人 竹柿会（ウエルハーネス上尾・デイサービスセンター向山）の開設記念日です。 昼食に記念の特別メニューが振る舞われます。

特養では、開催中止だったお誕生日会を引き続きおこないます。また、久しぶりの散歩も予定しています

デイでは、お習字、クイズ、ゲームや4月のお誕生日会を行ないます。

デイ ひな祭りゲーム



春分の日
特別メニュー



施設玄関前
ひな人形



特養 誕生日プレゼント



デイ 和風手毬作品



デイ テーブルホッケー

